

基本文法の教室内学習と実践的言語運用について

— 学習者制作映画における既習・未習文法分析 —

関口 美緒

要 旨

2014年秋学期、グローバル30プログラムCモジュールで映画制作活動を行った。G30のCモジュールはABモジュール（教室内学習）で習得した学習内容を実践に応用するのが目的であるため、今学期は映画の制作を課題とした。中でも日本語2の初中級レベルでは既習の文法項目が少ないことから、脚本作成が困難であると思われる。また文法の学習がすぐに実践的言語運用に役立てられるかという不安もある。本稿は、日本語2の学生の制作した1作品が教室内で学習した文法を数多く台詞に使っていることに着目する。そして、既習文法項目と脚本の対照分析を行い、教室内での文法学習が実践的な言語運用へどのように使用され、どのくらい有効であるかを検証する。

【キーワード】 既習・未習文法 映画制作 教室内学習 実践的言語運用

Learning Basic Grammar and Practical Performance : an analysis of learned and unknown grammar in a learner-produced movie

SEKIGUCHI Mio

【Abstract】 The Japanese grammar that was covered in the classroom took into consideration the effectiveness of the grammar for utilization in a practice activity in which the learners produced a movie. This paper reports on the classroom activities. A movie making activity was performed in the C module Global 30 Japanese classes in the fall semester, 2014. I analyze the grammatical items appearing in the movie that utilize basic grammar of “Japanese 2,” a late elementary class held in AB module. It was thought that improve production, including writing scripts, would be difficult for Japanese 2 level students. The movie used grammar which was learned in the classroom, which can be quite different from that used in real life stimulations. However, it was found that many of the grammar items introduced in Japanese 2 were used in the lines of the movie. Based on this observation, it is thought that the value of the learning basic grammar in the classroom may be reconfirmed.

【Keywords】 learned grammar, unknown grammar, in-class learning, practical performance, movie production

1. はじめに

グローバルG30¹ (以下、G30とする) 日本語 2²と 3 は、平成26年度秋学期Cモジュール³で日本語映画の制作を行った。Cモジュールは選択授業であるため、履修する学生が各クラス小規模になる。日本語 2 と 3 を合同にし、4～6名の学生を1つのグループにした。G30映画祭全6作品のうち、本クラスはコメディ部門、学生生活部門、ラブストーリー部門、ミステリー部門の各部門に1作品ずつ、計4本の映画をG30映画祭に出展している。G30日本語 2 と 3 は、初中級や中級レベルにあたる。このクラスから出典された映画は、感嘆詞、擬音語、擬態語や非言語的表現、また編集での工夫(映像や効果音など)で表現している作品が多く、教科書で学習した表現や文法にはあまりこだわってはいなかった。しかし、筆者は出展された4本の映画の中で、「冬の90日」という短期留学生と日本人学生との淡いラブストーリーを描いた1本の映画が、日本語 2 で学習した文法をうまくいかした作品となっていることに注目した。この映画に関して教室内学習の基本項目と映画で実際に使用されている語句を対照し、教室内学習と実践言語運用との有用性について考察する。

CモジュールはABモジュールで学んだ文法、語彙、作文などを応用し、日本語を使用することが目的である。そのために、本学G30日本語 2 (筆者担当のクラス) は日本語 3 と協力して、必然的に「日本語を使用する場」を設定するために映画を制作する課題を選択した。映画制作には「日本語の脚本」、「字幕のための日本語」そして「演技のための日本語」というような総合的な日本語能力が必要であり、日本語の応用力が問われるため、日本語の実践運用に適した課題であると判断した。しかし、映画制作を課題にするにあたり日本語 2 で学習した初中級レベルの文法(文法事項等のレベルに関しては「第3章」に記載す)では、実生活で言語を運用するには不足事項が多く、困難であると思われる。

今回日本語 2 の学生を中心とした映画は日本語 2 レベルの学習での言語表現レベルで映画が制作できるという可能性を見出すことができ、教室内学習の価値を再確認することになるのではないと思われる。

2. 平成26年度秋学期Cモジュール日本語 2 の基本的な活動内容

平成26年度秋学期Cモジュール(週3回5週間)日本語 2 は、ABモジュールで学習した項目を応用し、実践的な日本語活動を行った。

日本語 2 のABモジュールは主に基本文法と作文が中心(詳細は第3章に記載す)であるが、CモジュールではABモジュールでの学習を活用し、主に「読解」と実践会話に沿ったABモジュールの文法ドリルを基本的に行っている。そしてプロジェクトとして、実践へ応用する活動を行う。平成26年度春学期のCモジュールは主に「会話」の実践活動に焦点をあてたが、秋学期では「映画制作活動」に焦点をあてた。

日本語 2 の「読解」の活動は、『レベル別日本語多読ライブラリー・日本語よむよむ文

庫』(以下、「多読ライブラリー」とする)を用いて行う。G30日本語2では、多読ライブラリーのレベル2(初級後半で語彙数500・1話の文字数1500~2500)からレベル3(初中級で語彙数800・1話の文字数2500~5000)を辞書を引かずに、およそ10分から15分で読む。今学期は日本語初級レベル(短期留学生プログラムで筆者が担当したG30以外のクラス)の学生が5名受講した。そのためレベル1(初級前半で語彙数350・文字数400~1500)の読み物も用意した。またG30日本語2の登録者の3名は漢字の認識が可能なため、レベル4(中級で語彙数1300・文字数5000~10000)にも挑戦してもらった。そして読書後は、短いコメント(1~2文の感想文)を日本語で書き、何冊読むことができたかを簡単な感想とともに記録した。

ABモジュールの文法復習ドリルは、2組のグループに分かれて指導した。筆者の担当したグループは、G30日本語2から2名の非漢字圏の学生(日本語の文法を時間をかけて理解するタイプ)にリーダーシップをとってもらい、総合日本語1から4名の非漢字圏の学生とが合同になり、英語による説明を交えて指導した。またG30日本語2の5名の学生(漢字圏・非漢字圏合同)のグループはティーチング・アシスタントの大学院生に日本語で指導してもらった。

3. 日本語2の必修課程ABモジュールでの教室内学習内容

3.1 日本語2・ABモジュールの概要

第1章でも触れたが、G30日本語プログラム日本語2のABモジュールは主に文法とそれに伴う練習ドリル、そしてその文法にそったテーマで4本の文章を「書く」ということが中心課題である。その文法項目に沿ったテーマとは、例えば「~たい」という『Structural Functional Japanese⁴』(以下、「SFJ」とする)第7課の文法を学習した後、My Story(講師作成の記述指導テキスト)でのテーマとして「冬休みにどこへ行きたいですか」や「休みの日に何をしたいですか」などを選択させる。ABモジュールでは「SFJ (Note)」の第1巻と2巻の第7課から第12課の文法を学び、宿題としてドリルを行い、答えあわせをする。

このようにABモジュールでは「文法」と例文、そして記述の指導が中心となるため、実践に結びつくような「会話練習」や「聴解練習」にはあまり時間を割くことができない。ただし、日本語2では「SFJ」の文法と国際交流基金の「エリンが挑戦」での文法項目が適合する課において「エリンが挑戦」のスキットを見る。そして学生が体験した場面や日常生活で体験することが想定される場面の例を挙げてもらう。

3.2 日本語2の文法

以下、G30日本語2で学ぶ文法の主な項目を一覧にする。これらはSFJ第7課から第12課(SFJ第2巻から第3巻)にあたる。

表1 日本語2の既習文法一覧

課	文法項目	表現の内容
第7課	～たい	自分の願望を伝達。
	～んです (のだ文)	理由や驚き、事実の強調を表現。
	～が・けれど・けど	逆接の接続助詞を使い、逆接の条件節を用いた文。
	に・から・まで	格助詞を使い、「時間・日にち」を表現。
第8課	ナイ形 →～ないでください	ナイ形を使った禁止の表現。
	～ている・ていない	結果の状態を表現。
	～てもいい	許可の表現「てもいい」
第9課	～て、～。	様態や事象の「並列」を形容詞と名詞に接続する「～て」を使って表現。
	～ので、～。	接続助詞「ので」を使って理由を説明。
	する・なる	変化を表す表現。
	～という	「～という」を使って、引用を表現。
第10課	名詞修飾	形容詞の名詞修飾、「の」を使った名詞修飾。
	～より・一番 (形容詞)	比較級「～より」・最上級「中で一番」
	～は～が～。	「～は～が+形容詞述語」の文。
	～というのは	「～というのは」を使って、引用を表現。
第11課	～たら (if)	条件節「～たら」
	～と思う	「～と思う」を使って、引用を表現。
	自他動詞	「する・なる」第9課から自他動詞へ導入。
第12課	～と (when)	条件節「～と」
	～ほうがいい	「～ほうがいい」を使った助言の表現。
	～てから・あと・まえ	物事の順序を表す接続助詞を使った複文。
	を	格助詞の通過の「を」

4. 「冬の90日」映画制作に関すること

平成26年度G30映画祭出展作品の中で特に筆者が注目したのが「冬の90日」という映画である。この映画には日本語2で学習した文法項目が多く含まれている。

4.1 映画作成への参加学生

「冬の90日」の参加学生は日本語1の短期留学生、日本語2の学生3名、日本語3の学生の計5名によって制作された。特に他3本の出展映画と比較して日本語2の学生が目立つ。シナリオは全員で話し合ったものであるが、総合日本語1の学生と日本語2の漢字圏の学生が中心で編集された。

登場人物は4人で、主役は「ケビン (非漢字圏の学生)」と「そら (設定は日本人学生、

実際は漢字圏の学生)」である。ケビンの友人でクラスメイトの「げんた（設定は日本人学生、実際は非漢字圏の学生）」とそらのクラスメイトで相談役の「リコ（非漢字圏の学生）」である。ケビンは日本語ができないという設定なので、ケビンとげんたの会話は英語の部分が多い。対象的にそらは日本人という設定なので、そらとリコの会話は全て日本語であった。

カメラは日本語 1 からの非漢字圏の学生が担当した。日本語の修正は前日の授業で授業担当者がおこなった。時間の都合上再修正はできなかったため、一部未修正のまま出品された。

4. 2 場面について

「冬の90日」の舞台は筑波大学留学生センター棟近辺（教室の含む）と体育芸術学群近辺およびつくばセンター駅ターミナル近辺である。映画という仮想の場ではあるが、筑波大学の留学生にとって身近で現実の場所が使われている。これはSFJの場面設定とも重なる部分である。例えば、事務室や教室の場面など大学のキャンパスまた公共交通機関であるバスや電車など学生が実際に使用するであろう場所が例文や会話練習としてもちいられている点からいえる。

4. 3 映画での文字・音声に関すること

授業では映画制作のための指導として、授業担当者は見本となる映画鑑賞、寸劇指導や方法など日本語 2 と日本語 3 の合同クラスでの基本的な映画制作のルールを提起しただけであり、テーマ、脚本、撮影、編集まで学生主体で行われた。したがって授業担当者は、脚本で既習語彙や文法のコントロールは一切おこなわず、あくまでも学生主体という形で様子を見ることにした。

「冬の90日」は、日本語 2 の初中級レベルの文法と会話活動が中心となって制作された。日本語 2 のレベルでは発音や誤用などが多く、音声のみでは理解できなかったり、誤解が生じると思われる。そのため「冬の90日」では日本語会話を字幕としてして編集し、文字からもストーリーの流れがわかるように工夫されている。また英語での会話部分でも同じように字幕を使っている。

5. 日本語 2 の文法と映画での応用

本章ではより具体的に、文法項目とシナリオを対照させる。まずシーン別のシナリオの紹介、次にシナリオの文法と既習文法項目との対照（表 2）、そして未習文法項目との対照（表 3）を行う。

(1) シーン別のシナリオ

＜シーン1＞ 初めてケビンとそらが出会う。(つくばセンター駅で)

ケビン：すみません。すみません！

そら：はい。

ケビン：つくばだいがく。。。I want to go.

そら：つくばだいがくにいきたいんですか。

ケビン：I want to go there.

そら：えーと。

筑波大学なら、あそこのバス停に、筑波大学に行くバスがあります。

じゃあ、つれていってあげます。

ここから筑波大学までの(行く)バスがでますよ。

時間が確認(することが)できます。ここ。

ケビン：Thank you! Oh, she is gone.

＜シーン2＞ 再度、学内でケビンとそらが出会い会話する。

(「一週間後」体芸棟自転車置き場で)

そら：ああ、ごめんなさい。ほんとうにすみませんでした。

ごめんなさい。だいじょうぶですか。

ケビン：I want…ちょっと。。。Excuse me.

(メモを見ながら)先日、つくばセンターで、大学の行き方を教えてくれて、本当にありがとうございました。

わかりますか。

そら：は、は、は(笑)。

「ありがとう」って言いたかったから、これを作ったの。

おもしろい！あ、ごめんなさい。

それは、大丈夫です。そんなに難しいことじゃありません。

＜シーン3＞ そらが友人リコにケビンのことを話す。(教室で)

そら：あ、リコ。

リコ：あ、そら。遅刻だよ。何かあったの？

さっき、自転車をぶつけちゃった。

また？今月はもう4回目でしょう？

そら：そんなに多くないよ！

あ、そう、外国人にぶつけちゃったんだけど、

じつは彼には先週つくばセンターでもあったんだ。

バスがわからなくて、迷っていたから手伝ってあげたんだ。

しかも彼、私にまた会おうと思ってたらしくて、紙に日本語をメモしてずっと持っていたんだ。

すごいでしょ？

リコ：ほんと？どうやって話したの？

そらって、まさか英語はなせるの？

そら：いや、できるわけないよ。

リコ：（英語を）勉強したほうがいいよ。また会うかも。

<シーン4> ケビンが友人ゲンタにそらのことを話す。（研究室で）

ケビン：Genta！

ゲンタ：You just finished the class?

ケビン：Yeah, I just finished the class.

Oh, my god! Very tired.

Yeah, Genta! You said you will teach me Japanese today, right?

ゲンタ：Why so sudden?

Uh, you found a Japanese girl, right?

ケビン：No, no, no! I just want to learn.

ゲンタ：Okey, but you have to tell me about her, Okey?

ケビン：Okey, I will tell you.

ゲンタ：私の名前は。。。

ケビン：私の名前はケビンです。ナイジェリアから来ました。

ゲンタ：One more, one more.

ケビン：私の名前はケビンです。ナイジェリアから来ました。

ゲンタ&ケビン：Yeah!!!!

<シーン5> 「次の週（字幕）」：再度ケビンとそらが会い、食事に行く。

（体芸棟駐輪場で）

そら：こんにちは。先週、ここで会いましたね。

ケビン：あ、そうですね。

そら：え？日本語がもう話せるんですか？

ケビン：はい、今日本語を勉強していますから、ちょっとだけわかります。

そら：うん、なるほど。がんばってね。

ケビン：はい、ありがとう。どこに行きますか？

そら：学食にご飯を食べに行こうと思って。

ケビン：もういっぱい、もういっぱい。

そら：あ～、ごはん、しょくどう、ごはん、たべて。(パントマイムで)

ケビン：いっしょに。

そら：オッケー。

<シーン6>「何週間か後」「2月19日木曜日(字幕)」：

そらが友人リコにケビンに対する不安な気持ちを打ち明ける。(教室で)

そら：おはよう、リコ。

リコ：おはよう。昨日、また(彼に)あったでしょう？

毎週水曜に会うことになったの？

そら：うん、そうかなあ。

でも、彼は携帯を使ってないし、水曜日以外の日に会えないよ。

リコ：そうだね。

そら：あ、来週最後だ。次の週、彼はかえっちゃう。

リコ：えー、そうなの。ぜったいかなしくなっちゃう。

まって。あなたまさか、彼のことが好きなの？

<シーン7～9>

<シーン7>「最後の水曜日(字幕)」

「彼は来なかった(字幕)」「何でだろう(字幕)」

そらがいつものようにケビンを待つが、ケビンは来なかった。

シーン8：ケビンも友人ゲンタにそらに会えないことを相談する。(研究室で)

ケビン：ゲンタ？

ゲンタ：うん？

ケビン：What time is it?

ゲンタ：Now, 2:20.

ケビン：2:20? Oh!

2:20.. I still have a lot to do...

I think I should have meet her by now.

ゲンタ：But sensei said you cannot leave room before you finish your report.

ケビン：Yeah, you are right.

ゲンタ：Ah! You will go back to your country next Friday, right?

ケビン：Yeah, that is the problem I have.

ゲンタ：So, does she know when you will go back?

ケビン：No… I forgot to tell her.

ゲンタ：I think you should meet her for the last time.

ケビン：Yeah, I think so, too.

＜シーン9＞「2月27日朝（字幕）」ケビンがそらを待つが、そらに会えない。
（体芸棟自転車置き場で）

＜シーン10＞「同じ日の午後（字幕）」リコと一緒にのそら。そらがケビンの辞書を見つける。
（体芸棟自転車置き場で）

リコ：あれは、何？じしょか。だれがわすれちゃったの？

そら：じしょ？ちょっとかして！

やばい、今日は自転車のってこなかった！

リコ：どこに行く？

そら：つくばセンター！

リコ：とつぜん、何？

＜シーン11＞「17:30…（字幕）」そらはケビンを追いかけてつくばセンターに行くが、予定のバスは出てしまった。

そら：間に合わなかった。

ケビン：そら！

そら：え、なんでまだここにいるの？

ケビン：別のバスで。。

そら：え、なんで？！

ケビン：そらがくるかも。

ここに住んでいた90日の間（中）で、（そらは）私と友達になった。

ありがとうございました。

ソラは本当にやさしくて、いろいろなことを教えてくれたんだ。

ソラと会って、よかった。

そら：私もだよ。

私はね、外国人と話したことがなかった。

ケビンと話せて、本当に嬉しいですよ。

私も今、英語もちょっと上手になったよ。

Thank you for being my friend.

ケビン：Wow!よくできた。

That's my bus! I have to go now.

行かなきゃ！じゃあね。元気で。

そら：じしょ、じしょ！

ケビン：あ、ありがとう。

そら：じゃあね。

ケビン：バイ！

(2) 既習文法項目とシナリオ上の出現シーン

表2 日本語1と日本語2で獲得した日本語文法一覧（映画での出現）

文法レベル	内 容	使用回数	使用シーン
日本語1 (L1～L6)	あいさつ（すみません：問い掛け）	2	1
	（ありがとう：感謝）	5	2, 5, 11
	（すみません・ごめんなさい：謝罪）	4	2
	（「そうなの」等：返答他）	5	2, 3, 5, 6
	終助詞（よ・ね等 Introduction 1）	13	1, 3, 5, 6
	疑問の助詞（か・の L1）	11	1, 2, 3, 5, 6
	指示詞（こそあど L4）、 疑問詞（どこ・なに・どう等）＜シーン7字幕＞	8 9	1, 2, 5, 10, 11 3, 5, 7, 10, 11
	助動詞（～なら～ L4）	1	1
	あります。います。（L4）	2	1, 3, 11
	名詞・形容詞述語文および否定文	2	2
	動詞て形接続の従属節（L6）	4	3, 11
	接続助詞（～から、理由）（L4）	3	2, 3, 5
	て形（L5）		1, 2, 3, 6, 11
日本語2 (L7～L12)	V-ない（動詞の活用）（L8） ＜シーン7, 8, 9, 10字幕＞	5 4	3, 6, 10, 11 7, 8, 9, 10
	V-たい（動詞の活用）（L7）	2	1, 2
	V-ている（動詞の活用）（L8）	4	3, 5, 6, 11
	形容詞/名詞＋て形接続の従属節	4	3, 5, 11
	のだ文（～んです L7）	4	1, 2, 3, 11
	～という、～とおもう（L9/L11）	3	2, 3, 5
	形容詞＋こと（L10）、動詞＋こと、名詞の＋こと（L12）	5	1, 2, 6, 11
	number回目、number回（L12）	2	3, 5
	～ほうがいい（L12）	1	3
	が、けれど、けど（逆接条件節）（L7） ＜シーン7, 9, 10字幕＞	1 3	3 7, 9, 10
	～になる（L12）	4	6, 11
	だけ（only L9）	1	5

格助詞日本語 1・2	の (NのN連体助詞)、と (N and N) (L1) ＜シーン10字幕＞		1, 2, 6, 11 10
	が、を (直接目的語)、に・へ (direction) (L1/L6)		1, 2, 3, 5, 6, 10, 11
	で (at)、と (with) (L1/L6)		1, 2, 5, 11
	から・まで・で・に (L7)		1, 5, 6
程度の副詞	あまり～ない (L6)	1	2
フィラー	あ(!)、ああ、えーと、えー、え(?)	13	1, 2, 3, 5, 6, 11

注：SFJの第1課から第24課をL1からL24と表記。

表2より日本語1の文法レベルは、すべての会話のシーンであいさつ、指示詞（こそあど）、終助詞、疑問詞など日本語のレベルに関わらない基礎的な文法は使用回数が多い。特に終助詞の「ね・よ」やフィラーは、会話をスムーズに行うために自然に使用されている。日本語2では、出来事を説明するシーン＜3・11＞で「～んです（のだ文）」が使用されている。また「～になる」は「かなしくなる＜シーン6＞」「友だちになる＜シーン11＞」「上手になる＜シーン11＞」などシナリオに必要な筋の流れで出現している。また名詞修飾の「こと」は、「難しいこと＜シーン2＞」「会うこと＜シーン6＞」「彼のこと＜シーン6＞」といったように形容詞、動詞、名詞などの品詞に用いられている。「～という」「～と思う」は「『ありがとう』って言う＜シーン2＞」「会うと思って＜シーン3＞」の2通りのパターンで使用している。動詞の活用については、「V-ない」「V-ている」「V-たい」という基本的な形式なので頻繁に使われている。て形による接続を使って従属文プラス主文というような長い文もみられた。第8課の「ている形」は、結果状態継続中の「ている」を学習し、第13課では進行形の「ている」を学習する。日本語2では、第8課でどちらも学習した。「～ほうがいい＜シーン3＞」は友人が主人公に助言を促すシーンに使用されている。

日本語1と2で学習している基本構文（名詞文・形容詞文・動詞文）を元に省略表現や言い指し文として表現している。「ほんと。＜シーン3＞」「いっしょに。＜シーン5＞」「なんで。＜シーン11＞」「そらがくるかも。＜シーン11＞」などの省略表現や言い指し表現は、＜シーン3・6・11＞のリコとそらの会話や、＜シーン5・11＞のケビンとそらの会話に多く使用されている。これらのシーンはケビンとそらが初めて会う＜シーン1＞とは異なり、より親密な友人関係であることがわかる。また、格助詞の用法は日本語1と2で学習した文法でほとんどの場合、表現可能であると思われる。ただし、格助詞に関しては、使用例に多義性が認められるため、既習例として文法項目だけを記載した。さらに名詞・形容詞・動詞文（第1課での基本構文）は、上位の文法として計算したため（同一文の複数算出を防ぐため）、排除した。

格助詞および名詞・形容詞・動詞文の基本構文を除き、124件の例が確認された。表2

と表3の全155例の中の約80%で日本語2までの文法で言語表現できることが確認された。

(3) 未習文法項目とシナリオ上の出現シーン

表3 日本語3以上で獲得する日本語文法一覧（映画での出現）

文法レベル	内 容	使用回数	使用シーン
日本語3以上	形容詞の名詞修飾 (adjective+ことL14)	1	2
	動詞普通形の名詞修飾 (V-short form L13) (シーン8字幕)	3 1	1, 6, 11 8
	動詞+方 (L20) 「行き方」	1	2
	～てあげる (L14)、～てくれる (L14)	4	1, 2, 3
	～てしまう (L22) (シーン11字幕)	4	3, 5, 11
	～でしょう (L19)	3	3, 5
	～らしい (L22)	1	3
	そんなに形容詞+ない (L19)	2	2, 3
	かもしれない (L20)	2	3, 11
	～なければならない (L23)	1	11
	～ようにする (L22) ～ように (シーン7字幕)	2	3, 7
	～わけがない (わけだL24)	1	3
	～でも (L19)	1	3
	可能形 (L14)	3	3, 5, 11
	意向形 (L16)	1	5

自然な会話表現には未習文法であっても、使用しなければならない文法項目もあるようだ。例えば、「V-ほうがいい」は助言で第12課で学習したが、助言の理由付けとして可能性を表す「かもしれない (第20課<シーン3・11>」を付け加えている。「て形」は日本語1で、「ている形」は日本語2で学習したが、日本語3で学習する「てあげる」「てくれる」「てしまう」も多々使用されている。特に「てあげる<シーン3>」は、そらが友人のリコにケビンとの出会いを説明するシーンで使用されている。逆に「てくれる<シーン2・11>」は、ケビンがそらに助けてもらったことを説明するときに使用している。また「てしまう<シーン3・5・11>」は、ストーリーの中でハプニングが起こったことについて説明する時に使われている。可能形は「話せる<シーン3・5・11>」という形でもちいられている。意向形は、そらの意志をケビンに伝える時<シーン5>にもちいられている。表3の内、日本語3 (SFJ: 第13課から第18課) は24の文法項目の内、11 (45.8%) の約半数を占める。

未習文法であっても、「てあげる」「てくれる」「てしまう」は日常の学生生活で使用または聞く機会があり、映画の中でも多く使用されたのではないと思われる。また、これら

の文法と動詞の活用形の可能形・意向形は日本語 3 で学習する文法項目であり、かつすでに動詞のて形も学習していることから、日本語 2 が終了した段階で使うことも十分可能である。

使用頻度の多かった未習文法は、日常耳にする機会も多く、また次学期に出現する文法である。このように未習文法であっても、比較的使用頻度に偏りがあるため、それらを補うことで、自然な会話が成立すると思われる。

6. まとめと今後の展望

本稿は、初中級レベルの文法学習が日本語の実践的な運用で生かすことができるかという課題について考察した。映画「冬の90日」のシナリオ（台詞）と既習（日本語 1 と 2）・未習文法（日本語 3 以上）の項目について対照し、分析した。その結果、台詞の約80%以上で既習文法が使用されていた。したがって、G30日本語 1 と 2 のレベルで学習した文法を用いて実践的な日本語を運用し、応用することが可能であると考えられる。今後の課題として、初中級レベルであっても日本語の実践運用に積極的に参加し、学生自身に創作させる活動をより積極的に行っていききたい。

注

1. 筑波大学は平成21年度に文部科学省によって「国際化拠点整備事業（グローバル30）」を実施する大学の1つとして採択された（ブッシュネル他2014：134）。
2. 平成26年度G30プログラムでは、日本語 1 から日本語 4 までの4つのレベルに分類されている。日本語 2 はG30プログラムの2学期目で、初中級に位置づけられるレベルである。日本語 1 を履修済みまたは修了相当と判断された学生が日本語 2 を履修する。
3. G30という1学期とは、必修のABモジュール10週（週3クラス）と選択のCモジュール5週（週3クラス）である。Cモジュールでは、既習の文法の応用・運用といった指導に重点を置く。
4. G30プログラムのABモジュールの文法指導で使用している主教材。

参考文献

- 冬の90日 <https://sites.google.com/site/g30nihongoeigasaito/2014-15-movies/fuyuno90nichi>
- 庵功雄他（2002）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 筑波ランゲージグループ（1996）『Situational Fictional Japanese』Vol. 1, 2, 3 凡人社
- ブッシュネル・ケード他（2014）「学びの冒険—G30日本語平成25年度春学期Cモジュールの取り組みについて—」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』29号：133-154